６年１組　音楽科学習指導案

令和６年２月８日（木）
指導者　上代　美樹

１　題材名　　曲想の変化を味わおう　「ハンガリー舞曲 第５番」（ブラームス作曲）

２　題材の目標

（１）曲想及びその変化と速度、旋律、強弱、反復、変化などとの関わりについて理解する。
（２）旋律の反復、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴く。
（３）音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽経験を通して生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

３　授業構想と探究への手立て

「ハンガリー舞曲 第５番」は、音楽を形づくっている多くの要素を捉えやすく、また曲も短いため繰り返し聴くことができる。本来、ピアノ連弾として作曲され、全２１曲からなる。様々な音楽家によってオーケストラ版の編曲が作られ、最も有名な曲が第５番である。華やかな旋律と４分の２拍子のリズムが特徴的で、調はト短調→ト長調→ト短調へと転調していく。構造は大まかに３部形式となる。

本題材は第６学年、つまり小学校生活の最後の西洋音楽を用いた鑑賞の学習となる。これまでの学びを生かして曲の特徴を自ら見いだすことを起点とし、探究の過程の中でさらに聴き深めていけるようにする。また本実践を「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点からも構成する。自らの感性を働かせるとともに、他者の感性を学びに生かし、自分の聴き方を深めていけるようにしたい。

そこで①実際に聴いた曲について、音楽を形づくっている主な要素を一人ひとりが見いだし、自分で「曲を聴く視点」を決める。②見いだした視点でさらに曲を聴き深めていくことができるよう､同じ視点の子どもたちでグループを作り､感じたことや気付いたことを伝え合う。③他の要素に着目した他グループの意見も聴き鑑賞を行い、新たな聴き方や自分の聴く視点との関連に気付くことができるようにする。④本学習を振り返り、自らの鑑賞の仕方の変容などを自覚できるようにする。

②③④の展開となる本時では、学習活動の充実化に向け題材曲の解説書を作ることを活動のゴールとして提示する。解説書を作ることを通して、見いだした曲の特徴や形づくっている要素、またそれによって生み出される心情や雰囲気を言語化していく。言語化することで自分の感性や他者の感性との交流を可視化し、要素の働きの理解を深めることや感性を働かせた聴き方の自覚を深めていけるようにする。

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想及びその変化と速度、旋律、強弱、反復、変化などとの関わりについて理解している。	旋律の反復、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

５　題材全体の流れ（全２時間）

・「ハンガリー舞曲 第５番」を聴き、感じたことと気付きを発表し、音楽を形づくっている主な要素について共有する。（１時間目）
・グループで話し合った音楽を形づくっている要素について意見を交流し、曲想の変化を味わいながら聴く。（２時間目/本時）
〔使用する音源：ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団　指揮：クラウディオ・アバド〕

６　本時の学習

(1) 目標

着目した要素を中心に曲を聴き深めたり、他のグループとの音楽を聴く視点の交流を通したりして、曲のよさや面白さを見いだし、曲全体を味わって聴く。

(2) 展開

主な学習場面と子どもの反応	教師の支援と評価
１．「曲を聴く視点」を意識して、「ハンガリー舞曲 第５番」を聴く。 ・旋律のくり返しがたくさんあるから、もっと詳しく知りたい。 ・多くの特徴を整理したら、曲の構造が分かってすごく面白そうだな。 ２．めあてを確認する。	・前時で出てきた「聴く視点」を確認してから曲を聴くことで、要素に注目して聴くことができるようにする。 ・事前にグループ分けを伝えておくことで、円滑にグループ活動に入ることができるようにする。
聴く視点を手がかりにして、解説書にのせるよさや面白さを集めよう	
３．グループで「曲を聴く視点」をもとに、曲のよさについて話し合う。 ・４つの旋律のくり返しがあることで、最後までわくわくしながら聴くことができると思う。 ・強弱の変化が激しいから、急に惹きつけられるところがよさだと思う。 ・短調→長調→短調になることで、曲のまとまりが出てくる。 ・速さが急にゆっくりになったり、最後は急に速くなって終わったりするところに面白さがある。 ４．グループで話し合ったことを発表する。 ・強弱と速さの変化が似ていて面白いと思った。 ・この曲のよさは、旋律にあると感じていたけれど、友達の発表を聞いて、速さの変化も面白いところだと思った。 ・調の変化は難しいと思ったけど、友達の説明を聞いてよく分かった。 ５．曲全体を味わいながら聴く。 ６．ふりかえりをする。 ・１つの視点に絞って聴くことで、その他の様々な視点に興味がわいた。ハンガリー舞曲 第５番の面白さは１つではなく、様々な要素が集まって、人を惹きつける曲になっていることが分かった。	・気付きを書き込めるホワイトボードを用意し、グループでの考えをまとめることができるようにする。付箋も必要に応じて使えるように用意する。 ・話し合いの一助となるように、Chromebook で音源が聴けるようにする。 ・速さや強弱などを視覚的にも捉えることができるようにタイムバーと音源が一体になったものを準備する。 【評価（思考・判断・表現）】 旋律の反復、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 （ワークシート、観察、発言） ・曲全体の構造を確認できるように、各グループの考えを曲の流れに合わせて板書をする。 【評価（主体的に学習に取り組む態度）】 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （ワークシート、観察、発言） ・解説書作りは家庭学習等で行い、Chromebook か紙面で作成することを伝える。

７　未来創造科とのつながり

未来創造科の学びを支える要素の一つに、一人ひとりの感性があると考えている。音楽科ではその構想の中で学習過程「出会い→気付き・試行錯誤・手応えの実感→よさの追究」（教科構想参照）を探究のサイクルとして捉えている。自らの感性を原動力として探究のサイクルを推し進めることができる子どもの育成を目指す。音楽を自ら生活に取り入れ、感性を働かせることを通したより豊かな生き方の探究につながる学びとなるようにしたい。